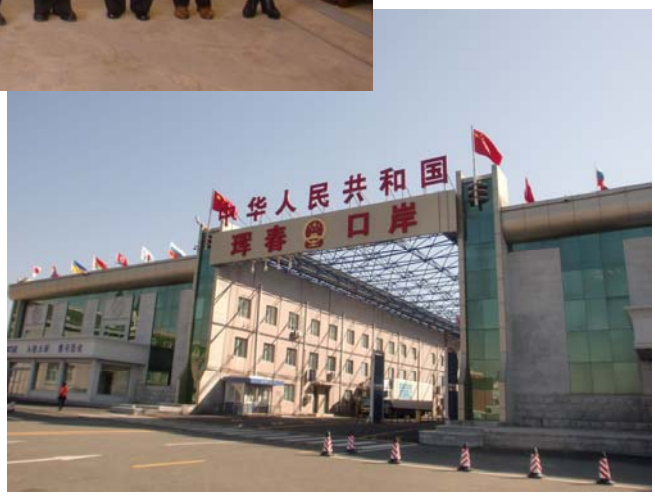
平成２７年度鳥取県議会中国訪問団
報告書

〔平成２７年１０月１３日（火）～１７日（土）〕



鳥取県議会

１　訪問日程及び訪問先

平成２７年１０月１３日（火）～１７日（土）

中華人民共和国

吉林省琿春市、長春市、遼寧省大連市

※　詳細は「４　日程表」のとおり

２　訪問団メンバー

団　長	銀杏　泰利　議員			
副団長	長谷川　稔　議員			
秘書長	浜田　一哉　議員			
団　員	西川　憲雄　議員			
＜随行＞	議会事務局	議事・法務政策課	課長補佐	遠藤　彰也
		調査課	係　　長	成相　紀久
	観光交流局	交流推進課	主　　事	杉谷　紘平
			国際交流員	胡　敏

３　所感及び県政に対する提言

今回の県議会による中国訪問団は、吉林省、遼寧省の中国東北２省を訪問した。その目的は、本県と 21 年にわたり友好交流を続けている吉林省との更なる交流の推進を確認すること、高い経済成長を持続している中国東北部の琿春市を訪問し、環日本海交流に係る中国側の拠点の現状と今後の可能性を探ること及び鳥取環境大学と友好交流協定を締結している吉林大学を訪問し今後の交流の在り方について協議することであった。

中国の実質ＧＤＰ成長率は、2000 年代に入り、平均 10%を超えて、2010 年には、名目ＧＤＰが日本を上回り、米国に次ぐ世界第２位となり、2012 年は、輸出総額、外貨準備世界第１位、貿易総額世界第１位と、急速な経済成長を遂げた。

日本と中国の政府間においては、2012 年の尖閣諸島の国有化以降、関係が冷え込んでいたが、2014 年 11 月の日中首脳会談を経て、中国人観光客の激増と「爆買」、日本人学生の中国への留学の増加に加え、2015 年 11 月には３年半ぶりに日中韓首脳会議が開催されるなど関係改善が進んできている。

一方、政府幹部の汚職・腐敗が後を絶たず、習近平国家主席は、政府機関に倹約を求め、地方政府においても交流会等の自粛が行われている中、今回の訪問では、いずれの訪問先においても大変な歓迎を受けた

これは、単に日本と中国が経済的に大事なパートナーであるということだけではなく、平成５年から本県と吉林省が長年にわたり培ってきた絆が育ち、日本海だけでなく国政の壁を飛び越えた大きな架け橋となっていることを示す一つの証左であるものと認識する。

今回の訪問では、本年３月に開設された関西空港から吉林省延吉空港への直通便、及び本年９月に琿春市まで延伸した高速鉄道を利用した。高速インフラの整備が進んだこともあり、人口 25 万人の琿春市に 10 月１日の国慶節の連休には１週間で 40 万人の観光客が訪れたとのことだった。国連提唱の図們江開発が前に進み始めたことを実感するとともに、今後ますます中国東北部の重要性が増すことを改めて認識した。

また、印象に残ったのは、建設進行中及び中断した高層マンション群、街路にあふれる自動車とスモッグにかすむ街並みである。訪問する先々では、必ずといっていいほど建設進行中及び建設中断した高層マンションの姿が目に入った。これらは投機目的のマンション及び建設途中で景気の後退により放置されたマンションがほとんどであると聞いたとき、急速な経済成長の進展後の減速の到来を感じずにはいられなかった。

また長春市内や大連市内は濃いスモッグに覆われ行き交う多数の自動車が黄砂状のホコリにまみれている様子は、中国の環境汚染の深刻さをうかがわせた。

中国東北部は、伝統的に重化学工業が発達し、とうもろこし等の穀物の生産地帯として知られるなど農業地帯でもある。産業構造としては、全体的に鉄鋼、自動車、機械工業、農業、食品加工、石油化学、石炭のシェアが高くなっている。この地域の経済は高い成長率が続いていたが、その成長には若干の陰りが見えている。

また、この地域は、日本、韓国、ロシア、モンゴル、北朝鮮といった北東アジア諸国と近接する地域であり、内陸にある吉林省にとって、ＧＴＩ（広域図們江開発計画）は、中露国境輸送の円滑化、日本海航路の開設等の課題はあるものの、対外的な発展により、さらなる経済成長を図る上での物流ルートの重要性と日本側の協力への期待の大きさを感じた。また中国国民の国外旅行に関するニーズは高く、日本にとっても中国人観光客のさらなる増加が見込まれる等航路開設のメリットが大きいと感じた。

今回は、まず吉林省琿春市で調査を行った。琿春市は、ロシア、北朝鮮の２か国と国境を接しており、環日本海交流の必要性を市政府が理解し、積極的に進めている。琿春市人民代表大会の李主任は今年８月に境港市で開催された環日本海拠点都市会議にも参加されており、鳥取県の境港市に対して特別な思い入れを有していた。併せて国境付近に位置する経済合作区にある小島衣料株式会社を訪問し、今後の物流に係る環日本海交流の可能性について実地調査を行った。

続いて、吉林省長春市を訪問した。訪問した 10 月中旬はすでに最低気温が１桁台になる時期ではあったが訪問時は好天に恵まれ気温も比較的穏やかであった。吉林省外事弁公室からも、表敬訪問した人民代表大会からも、心のこもった温かい歓迎を受けた。本県と吉林省が友好交流をはじめて 21 周年を迎えるが、これまで積み重ねてきた交流が着実に実を結んでいることを実感し、今後も交流をさらに推進していくことを互いに確認した。

長春市内には、学生数が７万人、教員数が１万人を超える吉林大学がある。70 年にも及ぶ歴史があり、2000 年には旧吉林大学を含む５つの大学が統合して現在の７つのキャンパスができたものである。

大学図書館を視察した際には勉学に励む学生の多さに驚かされた。図書館は建築面積 10 万平方メートル、館員 400 人で経済学、文学、理学、医学、農学、軍事学など 7000 万冊の蔵書を有する上、インターネットの利用で電子図書などの 24 時間閲覧が可能となっ

ていた。

吉林大学は海外との交流にも力を入れており、過去には日本との交流にもっとも力を入れていたとのことだった。

吉林大学では東北亜研究中心の王勝今主任と意見交換をした。王主任は、鳥取大学の教授や県のシンクタンクとっとり総研の調査研究部長も務め2015年9月21日まで吉林大学の副学長を務められた、環日本海交流に関する研究の中国における第一人者である、

王主任からは、鳥取環境大学との交流の促進、共同研究等の提案があったほか、鳥取県と吉林省との今後の観光、農業、図門江開発などでの協力関係等についても意見をいただいた。

最後に遼寧省大連市を訪問した。大連市は約1,500の日系企業が進出し、約6,000人の日本人が住む都市である。遼寧省全体では対日輸出が約25%、大連市では約40%と、大きな割合を占めている。

遼寧省では中国の中でも景気の後退が激しいとのデータが出ているが、今回訪問した日本貿易振興機構（JETRO、ジェトロ）や山陰合同銀行で伺ったところによると、その原因は主に円安による日本向け製品の販売減少と、人民政府での統計の取り方を改めた（正確性を高めた）ことによるとのことであった。

両者から伺った話によると、すでに従来の安い賃金での加工製造及び日本向け製品の輸出というビジネスモデルは過去のものとなっており、今後は内販型のビジネスモデルや高齢者向けのサービス産業が伸びてくるとのことであった。

今回の中国訪問を通じてこれまで培ってきた日本と吉林省の絆の深さを強く感じた。地方自治体、地方政府で行われる交流は、互いの顔が見え、普段の相手の姿を感じることができる、親しみの湧く交流であり、大変意義深いものであると感じた。国家レベルではいくつかの問題を抱えてはいるが、今後とも吉林省をはじめとした交流を継続し、深めていくことの重要性を感じた。

中　国　全　国　マ　ッ　プ

10/13：鳥取・米子→関西→延吉→琿春

10/14：琿春→延吉→長春

10/15：長春

10/16：長春→大連

10/17：大連→関西→鳥取・米子

■ 直轄市
□ 省　都
□ 有名都市

４　日程表

月　日	行程等（倉吉・鳥取発着）		行程等（米子発着）	
第１日	6:08	倉吉駅発（スーパーはくと２）	7:25	米子駅発（やくも６）
(10/13)	6:39	鳥取駅発（　〃　）	9:38	岡山駅着
	7:08	智頭駅発（　〃　）	9:49	岡山駅発（のぞみ１２）
	9:28	新大阪駅着	10:34	新大阪駅着
	9:46	新大阪駅発（はるか１５）	10:45	新大阪駅発（はるか１９）
	10:34	関西国際空港着（　〃　）	11:34	関西国際空港着（　〃　）
	13:10	関西国際空港発（MU５０５６）		
	14:50	延吉空港着（→借上バスＡ利用）		
	17:00	琿春市着		
		【表敬訪問・夕食会】琿春市長表敬・琿春市主催歓迎会　【ヒルトン琿春ホテル 泊】		
第２日	9:00	【調査】琿春辺境経済合作区（小島衣料服装有限公司）　※市内から 15 分		
(10/14)	10:45	【視察】琿春口岸視察（中露国境）　※市内から１時間		
	12:15	昼食（琿春市内）		
	13:50	琿春駅発（←借上バスＡ利用終了）		
	16:55	長春駅着（→吉林省バス利用）		
	19:00	【夕食会】吉林省外事弁公室主催夕食会　【長春市内　金安大飯店ホテル　泊】		
第３日		＜現地訪問・調査等（長春市内）＞		
(10/15)	午 前	【視察】（百貨店「卓展」or 偽満州国皇宮）		
	11:30	【表敬訪問】吉林省人民代表大会		
	12:00	【昼食会】人大主催昼食会		
	14:30	【視察】吉林大学視察		
	16:00	【表敬訪問】王副学長面談		
	17:30	【夕食会】吉林大学主催夕食会【長春市内　金安大飯店ホテル　泊】		
第４日	08:21	長春市内発　新幹線　（長春駅）（←吉林省バス利用終了）		
(10/16)	11:43	大連駅着（→借上バスＢ利用）		
	13:30	【視察】ＪＥＴＲＯ大連事務所		
		【視察】山陰合同銀行大連事務所		
	15:00	【視察】市内視察【大連市内　新世界酒店ホテル　泊】		
第５日	11:00	大連空港発（ＣＡ１５１）（←借上バスＢ利用終了）		
(10/17)	14:20	関西国際空港着		
	16:16	関西空港発（はるか２６）		
	17:04	新大阪駅着		
	17:19	新大阪駅発（スーパーはくと 11）	17:09	新大阪駅発（のぞみ４１）
	19:29	智頭駅着（　〃　）	17:55	岡山駅着
	19:59	鳥取駅着（　〃　）	18:05	岡山駅発（やくも２３）
	20:32	倉吉駅着（　〃　）	20:19	米子駅着

５　訪問先の概要

【平成２７年１０月１３日（火）～１４日（水）】

（１）吉林省琿春市主催レセプション

〔応対者〕

琿春市人民代表大会常務委員会　李　承哲　主任
琿春市人民代表大会常務委員会　陳　根梅　副主任
琿春市人民代表大会常務委員会　邰　忠丈　副主任
琿春市人民代表大会常務委員会　郎　永胜　副主任
琿春市人民代表大会常務委員会　民僑外弁公室　金　永権
琿春市人民政府　党構成員　事務所担当　金　誠華
琿春市人民政府　外字弁公室　朴　珍舜　局長

琿春市主催歓迎夕食会

銀杏団長と李主任

（２）琿春辺境経済合作区（株式会社小島衣料）

〔応対者〕小島衣料（琿春）服装有限公司　総経理　全　成哲

全　成哲　総経理から、事業概要を説明していいただき、工場内の視察、質問、意見交換を行った。主な内容は以下のとおり。

- 本社は滋賀県。琿春辺境経済合作区は日本海航路が開通したら最も日本に近く、可能性を感じて進出を決めた。
- 中国は東北地方の開発が遅れており、日本も山陰側は開発が遅れているが双方は日本海に面しているという共通点があり、日本海航路を有効に活用することでお互いに発展することができると考えている。
- 琿春市はライバルとなる外資系企業もなく、市政府等の行政機関も非常に協力的なのでとてもやりやすい。
- 琿春市は朝鮮族が多く、とても勤勉で日本語を学んでいる率が高い。1945 年以前は旧満州国で日本語を公用語として学んだ影響が残っている。今の教師の代にも

日本語が得意な人が多い。北京外国語大学の学生よりもレベルが高く、日本語ができる人材が豊富。日本への貿易という意味では中国国内でも最もやりやすい地域。

- OEM で多くのブランドの製品を作っており、銀座の店にも商品がならんでいる。輸出額は2,000万US ドル／年。
- 今後の日朝関係の改善と日本海航路の発展に大いに期待している。
- 現在、輸出する際はコンテナにハンガー掛けで商品を積み込み、大連市まではトラックで、大連市から日本までは航路で東京・大阪へ輸出している。
- コストよりもスピードが大事。新しい商品はすぐに模倣品が出回る。輸出を急ぐ新作はコストがかかっても空路で運ぶ。
- ロシア・ザルビノ航路の話は進んでいない。ロシアは国営であり商習慣も異なるので真剣に開発に取り組まない傾向が強い。WTO に加入しても何も変わっていない。中露国境の輸送の円滑化が課題となっている。
- DBS クルーズ船のコストは高くないが、境港市に着いてから東京・大阪に運ぶまでの日本国内側のコストが高いため、結果として使いにくい。
- 安定した物流のニーズが見込めれば境港市に拠点を構えることも検討する可能性はある。東京・大阪を経由せずに境港市から直接日本全国に発送できないか？そのためには境港と物流ターミナル化が必要。

意見交換の様子

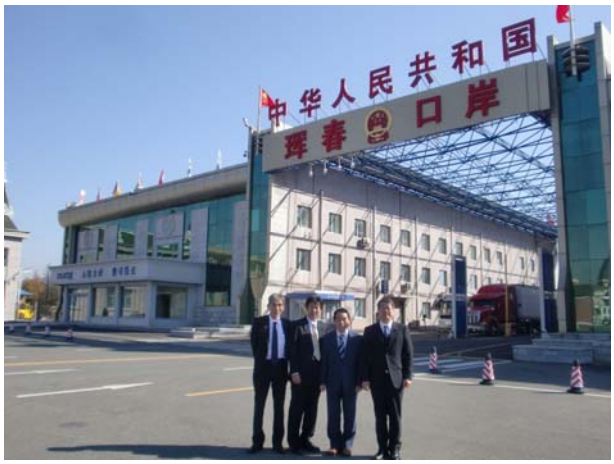
工場見学①

工場見学②

工場見学③

（３）琿春辺境経済合作区（中露国境、リンゴ園）及び　琿春市内視察状況

中露国境



リンゴ園視察

琿春市内

（中国語、韓国語、ロシア語が併記）

琿春駅

（2015 年９月に高速鉄道が開通）

【平成２７年１０月１５日（木）】

（１）吉林省人民代表大会

〔応対者〕吉林省人民代表大会　常任委員会　　袁　洪軍　　秘書長
吉林省人民代表大会　民族僑務外事委員会　　千　謙　　主任委員
吉林省人民代表大会　民族僑務外事委員会弁公室　　高　巍　主任

本県と友好交流提携を結んでいる吉林省の人民代表大会へ表敬訪問を行い、終始和やかな雰囲気で懇談が進んだ。

表敬訪問では袁秘書長からあいさつ及び吉林省及び人民代表大会の概要の説明があった後、銀杏団長からのあいさつが行われた。最後には袁秘書長から銀杏団長へ鉄観音茶が贈られ、訪問団を代表して銀杏団長から日本酒を贈呈した。

表敬訪問後は、吉林省人民代表大会主催の昼食会に招待された。

袁秘書長と銀杏団長の挨拶は、次のとおり。

【袁秘書長　挨拶】

銀杏先生を団長とする訪問団の皆様、ようこそお越しいただいた。吉林省人民代表大会を代表して心より歓迎する。

吉林省と鳥取県は 1994 年、友好の覚書を締結して以来、教育、経済、文化、交通、人材育成等の面に関して様々な交流を行ってきた。

吉林省の人民代表大会と鳥取県議会は相互訪問という形をとり、友好関係を深めてきました。おそらく今回鳥取県議会の４名の皆様は初めての吉林省の訪問だと思いますので、簡単に吉林省及び吉林省人民代表大会の紹介をさせていただく。

吉林省は中国の東北部に位置し、総面積は約 18 万 7 千平方キロであり、人口は約 2,750 万人、吉林省の中には８つの市と１つの州（延辺州）がある。そのほかに 60 の県がある。州都の長春市は中国の中でも最も有名な自動車の街、文化の街、映画の街、森林の街、彫刻の街である。

吉林省の特徴は５つあげられる。１つは古い工業団地でこれから振興する街。吉林省は中国の中で最も重要な工業地であり、特に加工製造業、自動車産業、石油化学業、農業加工業などが非常に盛んとなっている。

中国の国家公務員は中国の東北地方に戦略をたてて、吉林省の中でも長春が大いに発展する可能性があると考えている。また今年は中国が国家的に東北地方の開発を推進する策を出し、吉林省はこれからさらに発展する地域であると考えている。

国が東北地方に注目し、今後はさらに発展する力になると考えている。

吉林省もぜひ国の指導のもと、今後の体制改革、経済発展に一生懸命取り組みたい。

２つめの特徴は吉林省は中国の中で重要な食糧の基地でもある。非常に黒い土壌に恵まれ、とうもろこしの栽培が盛んである。食料の１人あたりの生産率は全国１位である。2013 年にとうもろこしの生産量において 710 億キロと歴史上の最高記録を達成した。

３つめの特徴として、海に近く、山に近い街である。吉林省は北朝鮮、韓国、ロシア、東シベリア、西シベリア、モンゴルに非常に近い街である。

国連が提唱する図們江開発プロジェクトの中で重要な位置を占めている。北東アジア地域の中で非常に重要な役割を果たす大切な地域となっている。

４つめの特徴として、生体環境が非常に優れた街である。吉林省の森林率は 43.4%になっている。東部では 70%以上。国の中で重要な生態環境エリアと指定されている。吉林省の鉱産物も豊かである。石油の埋蔵量も全国で１位である。これからどんどん開発が進むエリアだとされている。

５つめの特徴として、吉林省は教育、文化の街と言われている。全省の中で、科学者、エンジニア、博士の数は全国１位となっている。国内でも重要な開発センターもある。吉林大学も鳥取県と交流しているが、吉林大学も全国で規模が一番大きい総合大学である。

吉林省人民代表大会は吉林省の中で最高権力機関である。任期は５年。議員は 512 名。吉林省人民代表大会には８つの委員会がある。法律、内務、財政経済、教育科学技術衛生文化、民族外事国際交流、環境保護、農業農村、人事代表委員会の８つ。

常設機関としては常任委員会がある。現在常任委員会で働いているスタッフは 64 名。主任（議長）、副主任６名、秘書長１名。我々の仕事は地方の立法、監督監視、人事など。我々人民代表大会、常任委員会、州政府、共産党の指導のもと、真剣に仕事をし、省のいろいろな分野で貢献をしたい。特に吉林省の経済発展には大いに貢献をしてきた。

まだまだ中国の法律とか民衆、民事の面では改善すべき点はたくさんある。足りていないところは皆様との交流を通じて変更をさせていただきたい。今後ぜひとも吉林省人民代表大会と鳥取県議会との友好交流がますます深まるように祈念して私の挨拶とさせていただく。

【銀杏団長　挨拶】

このたびは人民代表大会のみなさまには袁秘書長をはじめ、大変お忙しい中、盛大に歓迎していただきありがたく思う。

鳥取県は日本海の沿岸に位置しており、古代には大陸の技術や文化が伝来して栄えた地域である。

現代では、東京や大阪の太平洋側の地域がにぎわっているが、今後はアジア諸国の発展が目覚ましいものであり、もう一度日本海を中心とした交易・交流を目指していきたい。また賑やかさを取り戻していきたい。そういう意味で鳥取県は環日本海の交流に力を入れ、そのため中国をはじめ北東アジアの国々と積極的に交流をしてきた。

特に、貴省と 1994 年に友好交流の覚書を締結したことについては先ほど、袁秘書長からお話があったとおりだが、それ以来 21 年間、経済、文化、教育などの交流をしてきて、その結果、貴省と鳥取県の発展に寄与してきたものと考えている。

日本は全国１億 3,000 万人と比較的人口も少なく、面積も小さい。貴省とは規模が違うが、それでも交流を続けてこれたのは貴省の人民政府、人民代表大会の御尽力によるものと大変感謝をしている。

近年、ずっと交流を拡大していこうと鳥取県は進めており、今年は８月にモンゴルで開催されたＧＴＩ地方協力委員会に鳥取県も参加させていただき、中国国境輸送ルートの安定化に向けた提案をさせていただいた。９月には中国北東アジア投資貿易博覧会にも参加をさせていただき、交易をすすめようという動きになっている。

今回の訪問団は昨日、琿春市に訪問させていただいた。琿春市は図們江開発の最前線でもあり、ぜひとも直接現地で地域のみなさんの声をきいてみたいと思い、視察させていただいた。経済合作区に小島衣料服装有限公司という日本から進出した企業もあり、そこで話を伺うとともに、リンゴ園も視察させていただいた。リンゴ園で聞いた話によると日本からきた研究者が地元にあう品種を開発して立派なリンゴが育つようになったということだった。

たくさんのとうもろこし畑の中で、これから収穫するという稲も見せていただいた。稲作については日本の岐阜県との交流がかつてあったと聞き、やはり岐阜県からきた研究者が吉林省にあった米を開発して広まったという話も聞いた。

昨日は９月に完成したばかりの新幹線（高速鉄道）で琿春から長春まで来させていただいた。今朝は偽満州国皇宮を訪問し、この地の歴史を学ばせていただいた。長い歴史の中でいろいろな困難な時代もあったかもしれないが、それを乗り越えて友好交

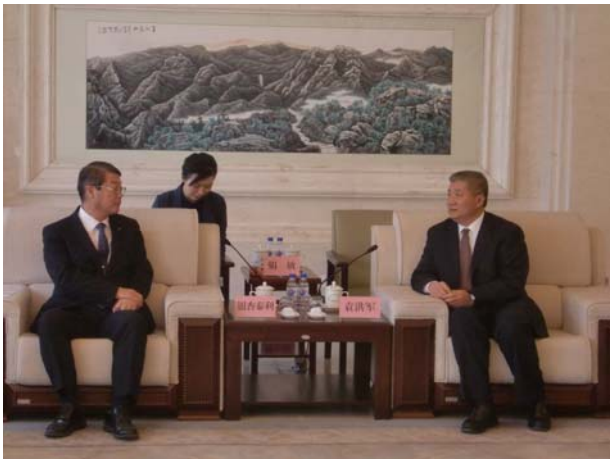
流に強く結び付けていきたいと決意した。

短く限られた時間ではあるが本日の午後には吉林大学も訪問させていただき、いろいろと勉強したい。こうした交流・視察の結果をこれからの貴省と鳥取県の交流・交易に結び付けさらに発展していきたいと考えている。

最後になるが、このたびは関係者皆様の温かいご高配に心から感謝しており、貴省が今後も大きく発展することと、みなさまの御健勝をお祈りしている。

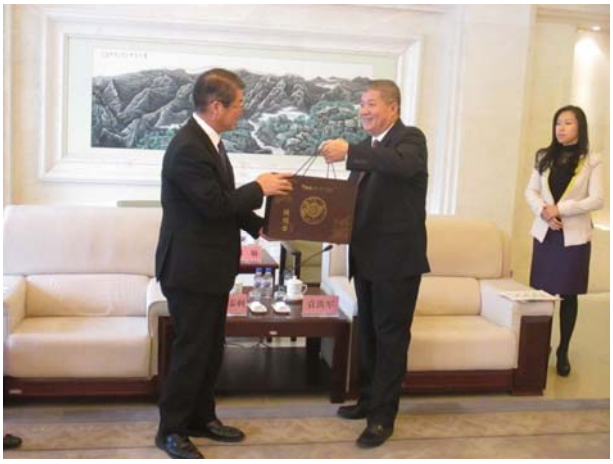
表敬訪問の様子

銀杏団長と袁秘書長



議員団と袁秘書長

記念品交換



（2）吉林大学

〔応対者〕吉林大学　東北亜研究中心　王　勝今　主任
吉林大学　国際合作与交流所　港奥台事亦公室　李　梅花　常務副所長

○王主任あいさつ

・吉林大学の学生数は７万人、キャンパスは７つ、長春市の東西南北に分かれて配置。教職員は１万８千人。
・2016 年には大学 70 周年を迎える。
・学部は理科系、文科系で構成
・中国の 3,000 の大学の中で９～10 番目の総合大学
・構内も広い総合大学であり、運営にもいろいろな課題がある。
・海外の交流が活発。過去においては日本との交流が多い。1980 年代からは教員の派遣を日本に一番多く行っている。
・自分は当該大学の日本語学科を卒業。日本語ができる教員も多い。
・自分は 22 年前に鳥取を訪問。西尾知事、片山知事、平井知事の時代を通じた長い関係を大事にしている。
・鳥取大学の教授をするとともに、県のシンクタンク鳥取総研の調査研究部長も務め、親近感をもっている。
・先日、北東アジア博覧会が開催され、副知事にも大学にお越しいただき感謝をしている。
・鳥取環境大学には経営学部もできたとお聞きし、すばらしいと思っている。東北師範大学との人的交流もすすんでいる。

○銀杏団長あいさつ

・10 月 13 日に延吉空港から琿春市に入り、いろいろと視察をさせていただいた。琿春からは新幹線で長春まで来た。午前中は偽満州国皇宮を視察し、歴史を学んだ。農業視察としてリンゴ園も訪問し、中露国境付近を訪問したり、図們江開発の状況も見せてもらった。
・鳥取環境大学は公立化して４年になる。学部生は全員公立化後の入学生となる。開校当初は私立大学で学生の確保に苦しんだ時期もあったが、３年前に吉林大学と国際交流協定を結んでいただき、規模や歴史は全く異なるが、協定を結んでいただけたことは非常にうれしく、感謝をしている。
・今日も大学内を視察させていただき、大学では 211 工程という国家プロジェクト扱いで進めていくという大きな転機があったと勉強させていただいた。
・東北地方に吉林大学という大きな大学があるのがとても重要なことだと思う。国の礎は教育にありと言われるが、その基礎がこの地域に根付いていることが発展の大きな力となる。
・今後とも人的交流を継続し、一部の学問であっても交流を行っていきたい。
・今年は吉林省との友好交流締結後 21 年になり、８月にはＧＴＩで中国国境輸送ルートの安定化の提案をさせていただいた。先ほどお話のあった北東アジア博覧会にも出展させていただいた。今後とも結びつきをぜひ強めていきたい。

〇王主任

・みなさんはまず延吉から中国に入られたが、自分は20年前からずっと図們江開発を研究しており、セミナーも開いた。図們江開発は、長春から車で延吉に行き、琿春からまた２日間かけて移動していた。その後高速道路ができて、５時間の移動に短縮された。９月 20日には高速鉄道（新幹線）ができて、延吉まで２時間になった。国慶節では延吉市には大勢の観光客が押し寄せ、お店もホテルも人であふれた。その様子を見て、やっと図們江開発が進み、人が流れるようになってきたと感じた。

・今は１日に２０便以上の新幹線の往復がある。長春～琿春まで人が流れてきたら、今度はロシア、北朝鮮、韓国、日本へと人が流れるようにする必要がある。国境を利用した国際観光が盛んになる。現状では１日～２日間の短期間の国境観光が主流だが、ほかの考え方もある。たとえば日本の西の玄関を鳥取県と位置づけ、日本海を利用した周遊コースを作ってはどうか。図們江を出発し、次の日は羅仁、琿春、次の日はウラジオストク、次の日は日本海を横断して新潟、境港と回る想定。

・自分は1993年に鳥取県境港市に初めて訪れたが、次は浜田市、韓国束草市と船で回り、ちょうど１か月かかった。海はとても静かだった。

・環日本海経済圏、環日本海交流圏のためには、日本では鳥取県、新潟県が中心となる。環日本海交流については西尾知事が10年ぐらい前から提唱されていたが、次はいかにして図們江開発による国際観光業を進めていくかが重要となる。

・日本海沿岸の都市はたいてい把握しているが、鳥取県が一番恵まれている。大山もある、砂丘もある、海もある、温泉にも恵まれている。

・次は国際観光業の推進により日本海を友好的に利用することが必要。境港市と琿春市は友好都市となっている。鳥取市と延辺州開発自治区も友好関係を結んでいる。

・長い目で見ると吉林大学の交流は鳥取県のためにも非常に有意義となるので、鳥取環境大学との交流を促進していきたい。

・鳥取環境大学とはすでに学生間の交流はスタートしている。次はできれば教員・教官の交流をしたい。鳥取環境大学の先生に短期でも長期でも良いので自分のところへ吉林大学へ共同研究に来ていただいて、吉林大学の先生も鳥取環境大学へ派遣して、半年や１年間の交流をして、地域交流を促進したい。いずれにしても鳥取環境大学との交流は吉林大学としては、積極的に進めていきたい。

・もう１点は、吉林省と鳥取県の産業構造は相互補完関係を持っている。たとえば農業技術。吉林省は人口は1,700万人だが、農業が主要産業となっている。鳥取県の農業技術の交流、農業関係研修を行っていただくことで、交流が盛んになり、図們江開発の促進、国際観光の促進、環日本海経済の発展が図られる。中国に人に京阪神だけではなく、鳥取県に来てもらうように、航路の開設が必要。

・環日本海拠点都市会議（市長会議）は鳥取県境港市で一番最初に行われた。自分も第１回の会議に参加して基調講演を行った。

・中国は一帯一路構想を持っており、海上シルクロード、陸上シルクロードという構想がある。そのためにも、おそらく年内には日中韓の３か国首脳会議も行われると思う。それにより関係も改善する可能性がある。

・いずれにしても吉林大学としては政府部門同士の交流、鳥取環境大学との交流。

・今、相談しているのは2016年４月に再度鳥取県を訪問し、今後の交流について意見交換をしたい。県レベルの交流、大学レベルの交流も含めて。３年前に平井知事にお会いして学

生間の交流もスタートした。今回、さらに環日本海交流を進める上で鳥取県の役割、地域の役割について意見交換をできればと思う。

〇浜田秘書長

・鳥取環境大学からは大学間でどういった分野での研究交流ができるのか、どこの窓口を使って相談させてもらえば良いのか等とお尋ねがあった。

〇王主任

・自分が今考えているのは、大学間の人的交流（学生交流、教官・教員交流、研究交流）。研究交流のテーマはたとえば鳥取県と吉林省の交流の在り方、環日本海交流の中において鳥取環境大学と吉林大学、両自治体はどのような役割を果たすべきかという研究。共通テーマを立てて、共同プロジェクトとしての研究を行う。鳥取県・吉林省の国際観光、地域財政、地域の活性化等もテーマとなる。環日本海交流の中では鳥取県の特徴、海も山も温泉もあるという環境をいかすことが必要。

・他には共同主催の国際シンポジウムも考えられる。鳥取県、吉林省、鳥取環境大学、吉林大学の４者共同主催のもの。

・自分が環日本海交流について考えているのは、まだ未発表だが①環日本海経済圏、②環日本海文化圏、③環日本海観光圏という３圏構想。自分は日本の日本海側の各都市、ロシアのウラジオストク、中国の延辺自治区等、日本海側をほとんど見てきた。

・秋田から北海道、北陸、山陰、天然の良港が多い。21 世紀の中で我々がいかにこの資源をいかして地域を活性化するのかを考えている。中国では３圏構想を唱えている。

〇銀杏団長

・どうしたら図們江とウラジオストク、ザルビノがつながるのかが今一つわからなかったが、昨日の朝、琿春市で建設中の高速道路を見ながら国境付近まで訪問した。今後、道路はウラジオストクまでつながり、線路は貨物輸送用だがザルビノの先までつながっていると聞いた。一応つながってはいると認識した。琿春市で地元の会社の幹部職員の話も聞いたが、商習慣がロシアと中国では異なりうまくいかないとのことだった。鳥取県内でも同じ意見でロシアに支店を持っている企業もあり、航路もあるが、なかなか商売がうまくつながっていかないと聞く。すんなりと物や人が往来できるようになるにはどうしたら良いかと考えている。それはＧＴＩ等でしっかり考えられるとは思うが、自分たちも気になっている。

〇王主任

・琿春市に北朝鮮との税関があるが、貿易用の貨物輸送はまだまだの段階。北朝鮮との国境に橋があるが、もっと大きな橋を建設することも必要となる。北朝鮮の羅津に行く道路も非常に良くなってきている。

・日本が航路を１日も早く開通させることが鍵となる。道路は中国側が開通させるが、航路がないとどうにもならない。

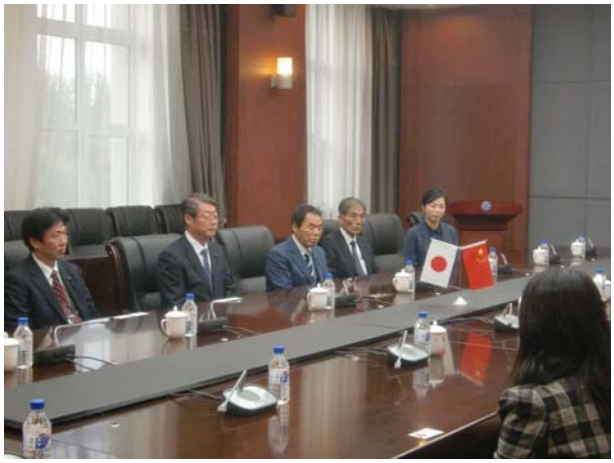
〇銀杏団長

・今は新潟と羅津港を結ぶ航路が途絶えている。境港～東海～ウラジオストクの航路はあるが。北朝鮮とは２国間関係の悪化の影響もあり、北朝鮮経由というのは難しい。

〇王主任

・アメリカのハワイ大学（東西センター）とヤンググレートレーニングが 2016 年８月に吉林大学で開かれる予定がある。北東アジア各国が５～６名づつ２週間参加してもらう 40 名規模の計画を立てている。鳥取県からも交流推進課に依頼して１名出してもらいたいと考えている。21 世紀の北東アジアの平和・繁栄のためには若い人たちに出てもらわないといけない。大学に限らず、モンゴル、北朝鮮、日本、ロシア、韓国、中国から。

意見交換の様子①



意見交換の様子②（左から２人目が王主任）

吉林大学内の視察①

吉林大学内の視察②（図書館）

吉林大学内の視察③

吉林大学内の視察④

旧満州国司法部

人民大街（旧満州国務院）

【平成２７年１０月１６日（金）】

（１）日本貿易振興機構（ジェトロ）大連事務所

〔応対者〕荒畑　稔　日本貿易振興機構大連事務所長

荒畑所長から、遼寧省を中心とした中国東北部の経済状況を説明していいただき、意見交換を行った。主な内容は以下のとおり。

【主な内容】（別添資料に基づき説明）

・東北三省（吉林省、遼寧省、黒竜江省）で中国経済の約 10%のシェアを占める。

・日系企業は中国の遼寧省に集中しており、その中でも大連に多く進出している。

・去年の中国全体のＧＤＰの伸びは 7.4%であり、それに比べると遼寧省や吉林省の伸びは劣っている。2015 年１月～６月期の遼寧省のＧＤＰの伸びは 2.6%であり、中国全体の中で最低の数字である。その中で大連市は 3.5%であり、遼寧省全体の平均を上回ってはいるが決して良くはない数字。吉林省は 6.1%、黒竜江省が 5.1%であり、遼寧省よりは良い状態。遼寧省の落ち込みが目立っているのが最近の状況。

・インフラについては大連～瀋陽～ハルピン間を高速鉄道が通っており、非常に便利になっている。現在、瀋陽～北京間にも高速鉄道を建設中。地下鉄については大連ではようやく１本の試験営業が始まったところ。年内に２本目の試験を開始予定。長春も年内に１本目の地下鉄の試験営業が予定されているが遅れている。

・空港に関しては大連は市内から車で 10 分の距離にあり非常に便利だが、市内から近すぎるので湾の中に新たに海上空港を建設中で 2019 年ごろに完成予定。

・大連市の人口は 600 万～700 万人。東北三省の玄関・窓口となっている。

・大連市の経済成長率は 2014 年が 5.8%、今年の上半期が 2.6%と落ち込んでいる状況。落ち込みの理由については統計のマジックが考えられている。もともと中国の統計データは正しいのかよくわからないといわれており、2014 年の夏に中央政府から遼寧省政府に対して統計データが不正確であるとの指摘が入ったと聞いており、その後、急に統計の数字が悪くなっている。2014 年の１月～６月は遼寧省のＧＤＰの伸びは７%

程度と中国全体の平均と同じレベルだったが、１月～９月期の報告から急に数字を５％台に落としている。その理由について遼寧省政府に確認したが明確な回答はなかった。今までの算出方法を改め、正確に統計結果を出した結果だと思われるが、実態はどうなっているのかよくわからない状況。

・大連市在住の日本人は6,000 人弱。実際に稼働している日系企業数は1,500～1,700。大連市政府は登記ベースで4,500 という数字を出しているが、これは登記ベースなので同じ企業でも支店ごとに複数カウントされており、休眠中の企業もカウントされている。

・日本商工会議所会員である日系企業数は766。これは上海に次いで中国第２位。北京よりも多い。

・地方自治体の事務所は６事務所（岩手県、宮城県、神奈川県、新潟県、富山県、北九州市)。

・主要産業は機械設備、造船、ソフトウェア関連が強み。日系企業は電気・電子関係が多い。

・日産はエクストレイルを年間 15 万台製造。30 万台まで増やす見込み。15 万台では部品工場も進出が少ない。

・従来は進出日系企業は大連で加工製造し、日本へ輸出する加工貿易型製造業のビジネスモデル（円建て契約）が中心だったが、昨今の円安により、日本円で売り上げても元に換算した場合の売り上げが２割～３割落ち込み、一方で人件費はどんどん上がっているのでビジネスモデルとして成り立たなくなっている。今後は日本への輸出ではなく中国市場での販売に切り替えようとしているが、製品の仕様が日本向けとなっているので中国向けの仕様への変更や営業スタッフの確保が簡単ではない。

・大連に日本企業が集まる要因としては、日本語を話せる人材が豊富であること。吉林大学等の日本語学科を卒業した学生は大連市で就職する場合が多い。

・給料の伸びは鈍化している。最低賃金については企業の負担も大きくなるため、遼寧省政府はなかなか上げていない。

・ＪＥＴＲＯが日系企業に経営上の問題についてアンケートした結果、日本向けに輸出をしている遼寧省や山東省では「為替レートの変動」を上げる割合が高かった。上海などの日系企業はもともと中国市場向けの販売をしており、そのような地域では為替レートの変動を問題にはしていない。

・可処分所得を上海とくらべると３～４年遅れたレベルとなっている。

・大連が１人あたりの可処分所得は高いが、市場規模としては瀋陽の方が大きい。

・瀋陽は同周円上に交通網が延びており、大連よりも市場が拡大する要素が大きい。大手ブランドショップの数も北京や上海に匹敵するほどとなっている。

・ホワイトカラーだけに限ったり、日経企業だけに限ると給与の伸びは高い。

・いずれゆるやかな伸びにせざるを得ないと思うが、中国では労働組合の中央組織が毎年発表する給与の伸びのガイドラインも抑えてきている。あまり高くすると企業の負担が大きくなり、撤退につながってしまうため。

・2013 年あたりから日系企業の撤退や事業縮小が増えてきた。当時は５％程度だったが、2014 年には 10%に増えた。2013 年にはまだ本社からの検討指示だったが、2014 年からは具体的な撤退指示になっている。それが 2015 年も続いている。

・同時に新規進出の相談も来ているが、業種は変わってきている。従来のような製造業ではなくサービス産業、高齢者産業にシフトしている。
・ラインの自動化が進み、新たな工場を作る動きはあるが、集約のための動きも多く、新たに建築、増設するのは少ない。
・最近は貿易が落ち込み、海外からの投資誘致よりも貿易額を増やすようにという指示が中央政府からきている。貿易額が落ちている理由は大連の日系企業にあるので、輸出を増やしたいと考えているはず。
・石油化学については品質は今一つ。原油価格が高かったときは、海外で作られた製品にくらべて価格メリットがあり中国産の品質が悪いものでも勝負ができていたが、原油価格が下落した現在は価格での勝負ができなくなってきている。
・東北三省の経済はいまひとつ元気が出ない。
・今年の初めには首相が東北三省のトップを集めてかなり厳しく叱咤したらしい。
・習金平政権になってから各地方政府に倹約の指示が出ており支出を抑えるよう、接待等では酒類を提供しないようになってきている。海外出張もなかなかできず、その他の売り上げも落ち込んでいる。これはしばらく続くと思われる。
・一帯一路構想もありヨーロッパ向けの製品を売るルートを検討する動きもある。
・黒竜江省はロシアから木材を輸入しているが、ロシア側が伐採について規制が厳しくなってきており、輸入が減っているので日本から木材（加工品）を輸入しようかという動きが出てきている。中国では杉は構造材として認められていないので内装材として見えない部分に利用するしかない。中国では中国杉のイメージが悪く、日本の杉とは異なる種類にも関わらずあまり受け入れられていない。

荒畑所長と銀杏団長にて

団長挨拶

（２）山陰合同銀行大連駐在員事務所

〔応対者〕波多野　滋　首席代表

波多野代表から、山陰合同銀行大連駐在員事務所の事業概要、及び中国東北部の経済概況やその見通しを説明していいただき、意見交換を行った。主な内容は以下のとおり。

【主な内容】

・大連に事務所を設けてから 18 年経過。18 年も経つとその間リーマンショックやＳＡＲＳや尖閣諸島問題等があり、状況がさまざまに変化し、それにより取引相手・業種もかなり変わってくる。
・現在は個別案件ごとに別々の対応が必要となる。
・大連は中国の中でもステータスが高い住民が多い地域であり、この地の利を活かすことが必要。人口は少ないが、住民の生活に深くかかわる商売が求められる。東南アジア、上海、大連では商売が異なる。
・最近は日本から原木の輸出を検討されている企業もあるが、以前に比べると中国進出の動きは少ない。中国では木材については合板のニーズよりも原木のニーズが高い。杉の木よりも檜が求められる。ロシアからの供給も減り、中国国内でも伐採規制が増えてきている。木材にはA材、B材、C材とランクがあるが、中国では木材は構造材として利用しないので、床板や壁や家具の一部としてB材やC材を多少使う程度。中国では内装を重視しない。最近の日本の木材は円安の恩恵もあり、オーストラリアや東南アジアからの輸入木材と比べると高付加価値という評価がある。
・日本と違い「見えないところ」に木材を利用する。
・以前は山陰地方の家具会社も遼寧省や山川省に進出していた事例もあったが、今はほとんどが撤退した。
・以前は大連は人材の供給基地として日本に多くの学生人材を輩出していたが、今はもう日本に行きたいという学生は皆無。日本に行くなら大連で仕事をした方が収入が良いといわれている。
・大連の企業は口を開けば「景気が悪い」と言っている。
・前の大連市長の時代に尖閣問題等が発生し、日本とも疎遠になったが、2015 年４月に大連市長が変わってからは大連の経済を引っ張っていくのは日本市場だという認識が広まっている。日本に対する期待感が高まっており、大連市場の特徴や特異性をとらえて製品をプロデュースすれば追い風になる可能性はある。
・大連と比べると吉林（長春）は発展のスピードは極めて遅い。
・マンションの建設中にストップしている物件が多い。建設中に販売価格がどんどん下がり、建設する意味がなくなってしまっている。建築費をかけて建設し、売りさばくのは一番簡単だが、ハードではなくソフト面がしっかり成長していないと続かない。売れれば一瞬でお金が手に入るため、この数年間、そのパターンを繰り返してきた結果の姿。
・大連は都市部はもう建設する余地がなくなってきて、どんどん港側に埋め立てを進めている。りっぱなニュータウンを建設しているがナンセンス。
・中国では空港と大学は郊外に移転させ、市内は居住サービス区域にするという方針が

ある。長春の空港も以前は市街地にあったが郊外に移転した。大連空港も現在は市街地にあり、どこかに移転させたいが、移転させる場所がないので海上に空港を建設している。

波多野首席代表と銀杏団長

波多野首席代表から説明を受ける団員

（３）大連市内視察状況

旧日本統治時代の路面電車

人民広場（大連市人民政府（旧関東州庁舎））

星海広場

旧日本人街